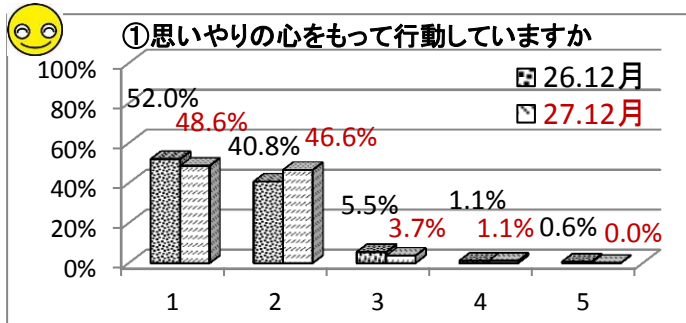
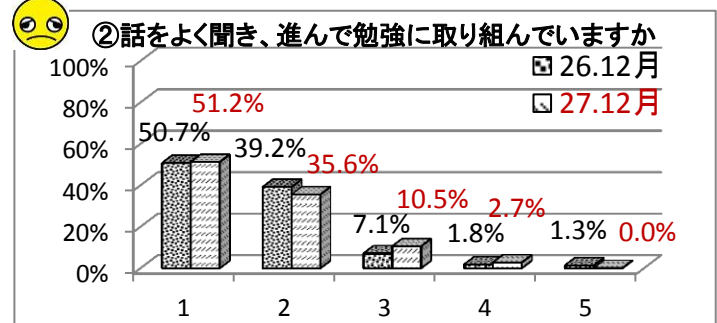


《評定について》	1: そう思う	3: あまり思わない	5: わからない・判断できない
	2: すこし思う	4: ほとんど思わない	無回答

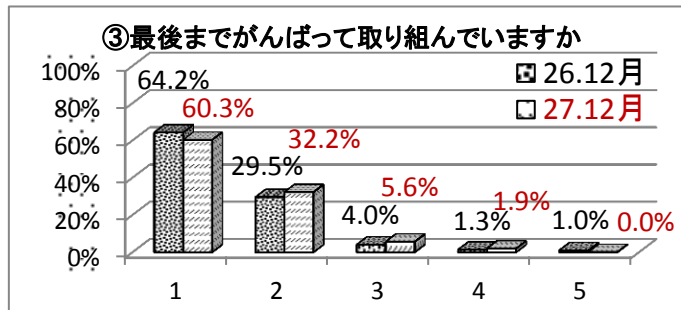
集計結果



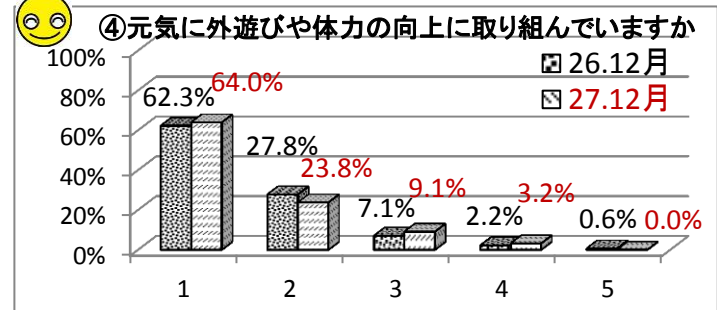
【考察1】
約95%の児童が、普段の生活の中で「思いやりの心」をもって行動しているという回答をしたことを嬉しく思います。日々の多様な関わりの経験が、児童を着実に育てていると考えています。



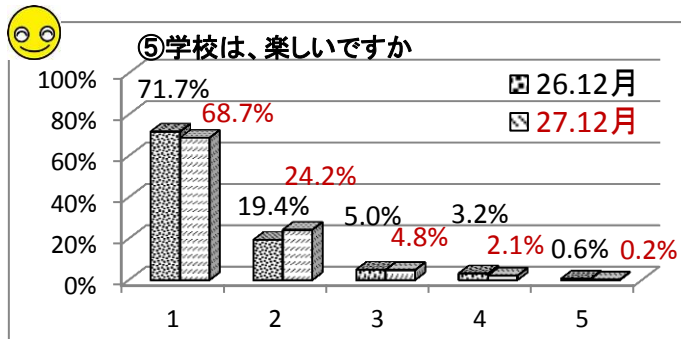
【考察2】
13%の児童が進んで学習に取り組んでいないという回答を残念に思います。学習意欲の向上と学習習慣の定着を目指して、学習活動の工夫改善に取り組んでいきます。学ぶ楽しさ・喜びを感じられるようになれば素晴らしいことです。



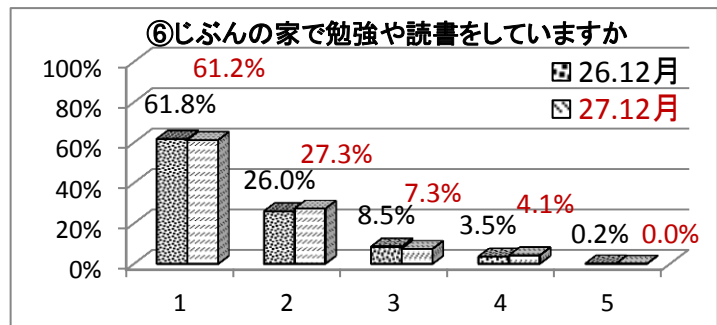
【考察3】
何事も最後までやりきることは難しいことです。「苦労して取り組んだことで出来るようになった喜び」を積み重ね、「努力することの楽しさ」を感じてほしいと願っています。



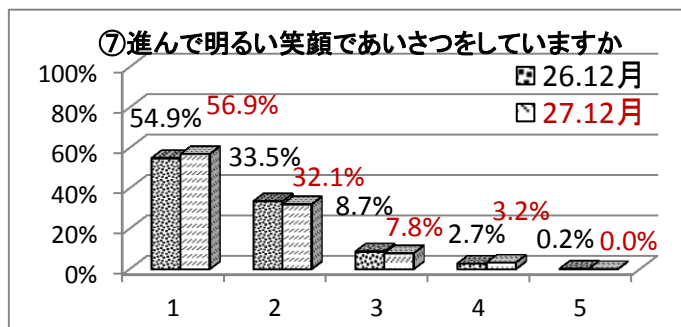
【考察4】
この時期、寒さと流感から外に出てあそぶ子が減ってしまうのも仕方ないかもしれませんが、それでも9割ちかくの子どもたちが元気に外遊びをしていることは、素晴らしいと思います。



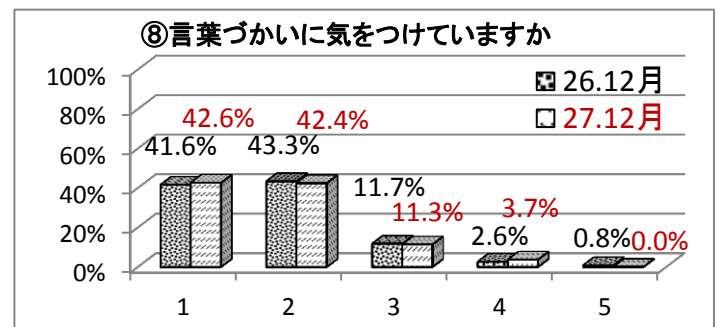
【考察5】
7%の児童が「学校は楽しい」とは答えられていないことを、学校として重く受け止めています。今後は、教職員間での連携のもと更なる児童理解に努めていきます。



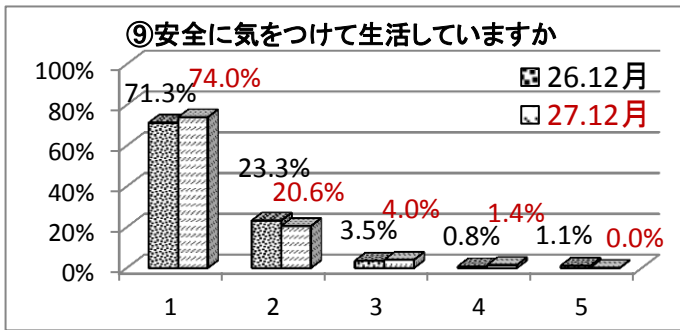
【考察6】
小学生の時期には、学習習慣と勤勉性を身につけることがとても大切であると考えています。毎日の家庭学習の取り組みに今後も取り組んでいきます。ご家庭でのご協力をお願いします。



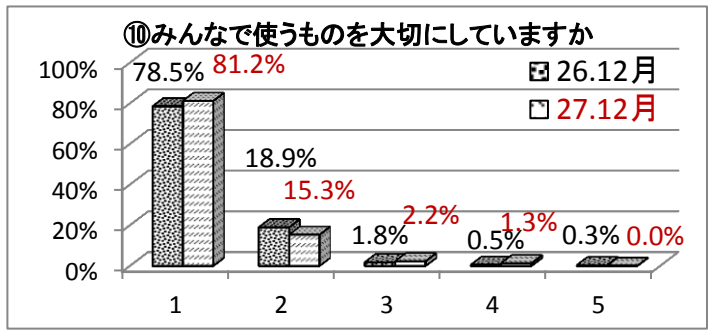
【考察7】
あいさつは、「礼儀」「マナー」として身につけるべき態度であると同時に、「心の活力」「親しさ」から湧き出てくる内面的な面があると考えます。本校では、児童会の活動として「あいさつ運動」を関中と連携して取り組んでいます。



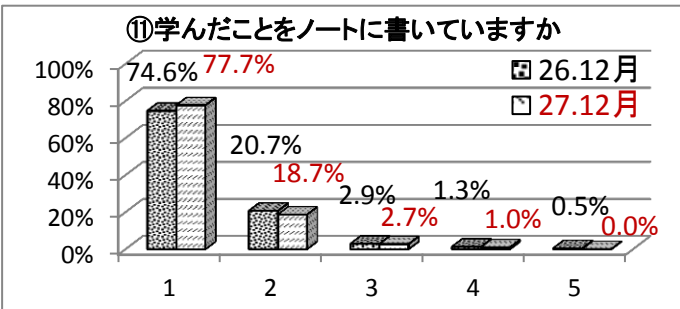
【考察8】
「礼儀」として、よりよい人間関係の構築のためにも、思いやりとやさしさのこもった正しい言葉づかいを身につけることは重要です。時と場に応じた正しい言葉づかいができるように、「聞く・話す」指導に本校は力を注いでいます。



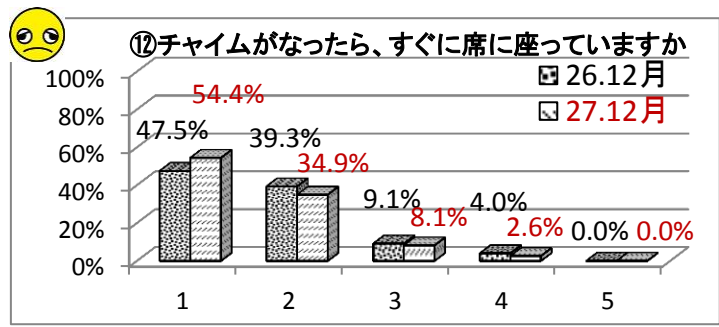
【考察9】
児童数の多さを考えると、決して十分な広さとは言えない本校の施設ですが、子どもたちは安全に気を配り、約束・ルールをよく守って生活しています。



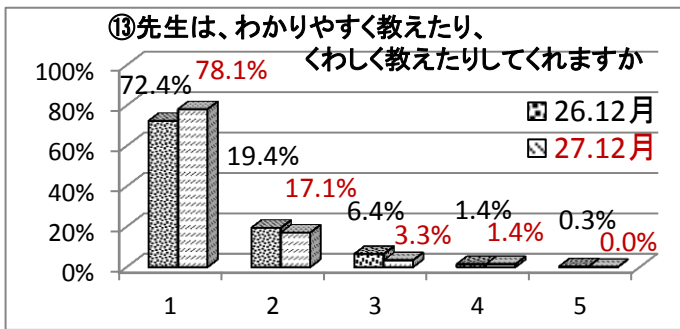
【考察10】
ほとんどの児童が「大切にしている」と回答していることを嬉しく思います。教職員が生活スタンダードを基本に共通理解を図って、協調した指導を行い、児童の公共心・社会性の育成に努めていきます。



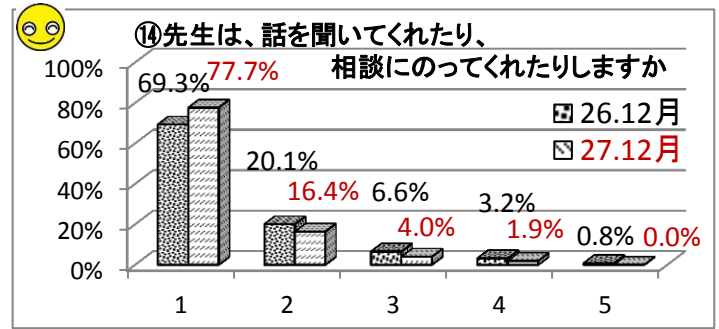
【考察11】
ノートは、学習したことを自分の中で整理し、振り返り、習熟を高める上ではとても重要です。ノート指導には今後も力を入れていきます。



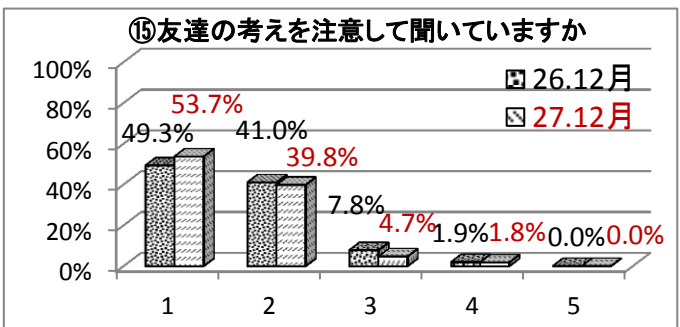
【考察12】
より良い生活習慣の定着のため、45分の学習時間の充実のために、「時間を守る」という意識を持つことは重要なことです。基本となる「チャイム着席」を、今後も目標高く100%を目指してがんばっていきます。



【考察13】
本校ではこの2年間、算数科を通して教員の指導力向上・授業改善に努めてきました。その成果の一部が表れたのであれば嬉しく思います。今後も、児童一人一人の学力向上のために努力していきます。



【考察14】
全体としては、良好な結果といえますが、約2%の子が不満を大きくもっているようで、そのことは学校として重く受け止め、今後改善の努力をしていきます。
「安心感をもって学校生活を送れる」という心の安定があって、はじめて学校生活の充実が成されるものです。学校としての教育相談機能をより整備・充実させて、より多くの教員で子供一人一人を見取り、丁寧な対応を心がけていきます。



【考察15】
本校の算数の校内研究では、比較・検討場面で「友達の考えからヒントを得る、考えを再構築する」学習に視点をあててきました。私たち教員は、「話を聞く力」の重要性に気付く研究でした。今後も授業改善に努め、「聞く・話す力」の育成を図っていきます。

【まとめ】

- 学習に取り組む姿勢・態度や家庭学習など、学習習慣の定着の面で課題が見えてきた。(保地2・7、児2・6)
→教員研修を重ね、授業改善・指導力向上を図り、児童の学ぶ力を高める指導と実践していく。
- 「あいさつ」や「約束・ルールを守る」については、子供の「できている」という意識と周囲の大人が見る評価とにズレがあることがわかる。(保地8・10、児7・8・12)
→児童の社会性を育むために、豊かで多様な関わり合いの場を意図的に設定した教育活動の中で、「あいさつ」「ルールを守る」について適切に指導を続けていく。